

児童会・生徒会活動

ボランティア活動などの社会参加

指定校番号	28054	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	安芸高田市立小田東小学校	校長	信末 実智則	生徒指導主事	佐々木 祐司
-----	--------------	----	--------	--------	--------

取組事例名 『ボランティア清掃』

取組のねらい『キーワード 自己肯定感』

地域の方々が利用される施設を感謝の気持ちを込めて清掃することを通して、地域の一員としての自覚ややり遂げることで自己肯定感を高める。

取組の具体的内容『キーワード 必然性』

児童の「地域の役に立ちたい」という願いの中で、4月にボランティアクラブを結成した。「地域の方にゲストティーチャー等でお世話になっている。その感謝の気持ちを込めて、自分たちでできることは何か」と投げかけ、ボランティアクラブで活動内容を考えた。

話し合いを進める中で、総合的な学習で「甲立駅を活性化しよう」と学習を進めている4年生から、「甲立駅に取材にいった時、たばこやおかしの袋が落ちていた。甲立駅の清掃をしてはどうか」という意見が出された。

そこで、町の出入り口にもなっている「甲立駅」を清掃したいということになった。そして、児童会にも協力を求め、甲立駅を清掃することに決定した。

取組の課題・創意工夫『キーワード 主体性』

昨年度ボランティア清掃に参加した児童会役員やボランティアクラブの児童が体験を話し、全校（対象3年～6年）に参加を呼び掛けた。

「駅を利用する人から、あたたかい声をかけてもらい、やってよかった。」「きれいになったトイレを見て気持ちがすっきりした。」等の感想を聞いた他学年の児童が「やってみたい」と参加を希望し、予定を上回る児童が活動に参加することになった。

その後、児童会役員とボランティアクラブが清掃計画を立てた。駅の内外を掃除することや掃除道具の準備、人数配置、3年生の掃除場所への配慮等を主体的に考え、ボランティア清掃を実現していった。



取組の成果（効果）『キーワード 貢献する意欲』

やらされる清掃ではなく、自発的な活動であり、懸命に清掃を頑張った児童の「楽しかった。」「きれいになった。」「やってよかった。」という感想を広めていくことで、自己肯定感の育成はもちろん、他の児童も「やってみよう。」という意欲をもちはじめた。

学校評価保護者アンケートの「子どもは、進んで自分の仕事や手伝いをしている。」という項目においても、肯定的評価が1学期 73.6%から2学期 77.9%と向上している。



今後の展開『キーワード 広げる 伝統』

平成 28 年度 4 月にクラブ活動の一つとしてボランティアクラブを結成した。このクラブは、学校内外のボランティア清掃や学校の遊び道具の片付け・整理を行っている。自分たちで活動計画を立て、主体的に活動を行っている。この活動を、より日常的な活動に広げていく。



平成 29 年度 3 月末で小田東小学校は統合され、甲田小学校になる。これまでのボランティア活動を他校にも広げ、統合された甲田小学校でも地域に貢献する活動を伝統にしていく。



他校へのアドバイス『キーワード 工夫』

児童の「ボランティア清掃をしよう」とする意欲や方向性を、クラブ担当者と児童会担当者が連携をし、見通しをもって、活動につなげていくように支援を行った。

全校朝会で全校児童に呼びかける機会を設けることで、ボランティアの輪が広がっていくなど活動内容の工夫を行った。

本校は「学びの変革」にかかわり、児童が「やってみよう。」「やらなければいけない。」等の意欲や必然性をもたせる課題設定の工夫を国語科、総合的な学習の時間を中心に行ってきた。この取組とつなげて、今年度のボランティア清掃では、地域への貢献や学習の中で気づいたことを課題にした。

課題解決の方法を児童に考えさせ、主体的な活動になるように仕組んでいった。これらの工夫が「自分たちでなんとかきれいにしたい。」という気持ちにつながっていったと考えている。

指定校番号	28073	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立可部中学校	校長	重森 雅徳	生徒指導主事	益田 幸始
-----	-----------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『生徒会主体のボランティア活動』

取組のねらい『キーワード：社会参加、居場所づくり、異年齢集団』

- ・ 地域で生徒が活動し、認められることによって自己肯定感をもつことができる。
- ・ 地域の方々に生徒と接してもらい、地域の子どもであることを認識していただくことで防犯活動にもなる。
- ・ 高齢者との交流をし、相手を気遣うという学校生活では体験できない貴重な時間とする。
- ・ 高齢者との接し方（コミュニケーション能力）や学校外でのあいさつ等のルール・マナーについて実践する場とする。

取組の具体的内容『キーワード：豊かな人間性、地域貢献、あいさつ』

① ケアハウス 「かんべ村」訪問

- ・ 生徒会執行部が代議員会を通じてクラスに伝達し、ボランティアを募り、約100人で施設を訪問する。
- ・ 生徒会執行部が、「司会・進行」を行う。
- ・ 吹奏楽部の演奏発表や合唱伴奏を行う。
- ・ 執行部による劇を行う。
- ・ ゲームを考え、入居者の方々と生徒が一緒になって交流する。
- ・ 参加生徒全員と入居者の方々と一緒に歌を歌う。
- ・ 自己紹介カードを各個人で作成し、利用者の方々に話をしながら手渡す。



② あいさつ運動

- ・ PTAにご協力いただき、生徒会とも連携して登校時、校門付近にてあいさつ運動を実施する。
- ・ PTAからのあいさつ運動実施日に該当クラス生徒も参加する。
- ・ 生徒会からのあいさつ運動（スマイルキャンペーン）実施日に該当クラス生徒も参加する。
- ・ クラブでのあいさつ運動を実施する。
- ・ 生徒会執行部のあいさつ運動を実施する。

取組の課題・創意工夫 『キーワード：生徒会執行部、学級単位』

取組の創意工夫

① ケアハウス 「かんべ村」訪問

- ・ 教員は、執行部のサポートに徹し、生徒主体の活動になるようにする。
- ・ 利用者との交流を行うため、自己紹介カードの作成や話をする話題、手遊びの方法などについて事前に参加者対象の説明会を開き、内容を検討するとともに準備を行う。
- ・ 高齢者の方にプレゼントするパンフレットの文字の大きさや自己紹介カードについて工夫した。

- ・ 劇を考え、使う小道具やシナリオを自分たちで作成した。
- ・ ボランティア活動として多くの生徒の参加を促すようにした。

② あいさつ運動

- ・ 学級単位で担任も一緒にあいさつ運動を行い、学級の所属感を醸成できるようにした。
- ・ P T Aと一緒にいることで、あいさつ運動への保護者の参加者増を期待できる。

取組の課題

① ケアハウス 「かんべ村」 訪問

- ・ 事前の準備に十分な時間を取ることができない。

② あいさつ運動

- ・ あいさつ運動へ参加できなかった生徒への配慮が必要な場合がある。
- ・ P T Aの参加数が少ない日がある。



取組の成果（効果）『キーワード：おもいやりの心、集団力、』

① ケアハウス 「かんべ村」 訪問

- ・ 利用者の方との接し方、話し方、話すときの姿勢など相手の状況に合わせ、相手を思いやることを実践することができた。
- ・ 毎回、新たに参加する生徒が増えており、高齢者とのふれあいを楽しんで意欲的に活動している生徒が多い。
- ・ 学校で実施するボランティア活動にも参加する生徒が増えている。

② あいさつ運動

- ・ あいさつをする生徒が増加し、クラス単位でのあいさつ運動にお互いが声を掛け合って、ほぼ全員が参加することができた。
- ・ 保護者や地域の方とも一緒にいることで、学校の様子を感得し、理解してもらう事ができる。

今 後 の 展 開『キーワード：新生徒会執行部、学級のリーダー、任せる』

① ケアハウス 「かんべ村」 訪問

- ・ 年2回の訪問開催以外に、本校の体育祭に利用者を招待するなど、様々な交流を行い、訪問への参加者を増やしていく。（職場体験でも受け入れていただいている。）
- ・ 交流内容を参加生徒や利用者が楽しめ、生徒が多くのことを感じられるようなものにする。
- ・ 行事的な取組ではなく、この体験から日常的にできる取組を増やしていく。

② あいさつ運動

- ・ あいさつを「いつでも・どこでも・誰にでも」きちんとできるようにする。
- ・ この活動で旧生徒会執行部の任期が切れるので、新生徒会執行部への引き継ぎを行い、より良い活動ができるようにサポートする。

他校へのアドバイス『キーワード：生徒の力』

- ・ 生徒が自分たちで交流内容を工夫できるように時間の確保とアドバイスを行う。
- ・ 交流事業所との打ち合わせを入念に行う。
- ・ 担当教員だけでやるのではなく、あいさつ運動や登校指導に参加してくれる教員を増やして実施していくことが重要である。

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立三和中学校	校長	出廣 久司	生徒指導主事	江島 太士
-----	-----------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『自主性を育むボランティア活動』

取組のねらい『キーワード 自己肯定感 自主的な活動』

- ① 様々なボランティア活動を仕組むことで、生徒が主体的に貢献しようとする意識を高める。
- ② ボランティア活動を通して、生徒が自分で考え、判断し、行動できるような自主的な態度を育てる。
- ③ ボランティア活動を通して、達成感を味わうとともに、「認められる」ことを通して、自己肯定感を高めるとともに、自分たちの学校を自分たちで守り、日々の学校生活をよりよく過ごしていこうとする態度を育てる。

取組の具体的内容『キーワード 生徒会を中心とした取組（生徒主体の取組）』

<生徒会で計画している主なボランティア活動>

- 挨拶運動ボランティア…毎週1回早朝挨拶運動を石内門・河内門で行う。
 - 早朝清掃ボランティア…毎週1回早朝清掃を行う
 - 緑化ボランティア…プランターに花を植えて、校内を飾る。卒業式、入学式に飾れるようにする。
 - 地域清掃ボランティア…地域に出て、ゴミ拾いや清掃をする。
 - 校歌ボランティア…朝会するとき、校歌を執行部と一緒に歌う。
 - 体育祭や文化祭などでもボランティアを募る。(例、文化祭における体育館椅子並べ等の会場設営など)
- ※ボランティアカードでの表彰をする。

※前期、後期の学期ごとにボランティアにもっともよく参加したクラスを表彰する。

<その他のボランティア活動>

- トイレ掃除ボランティア…「トイレ掃除に学ぶ会」の講師・保護者とともにトイレ掃除を行う。



あいさつ運動ボランティア



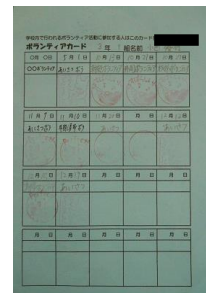
早朝清掃ボランティア



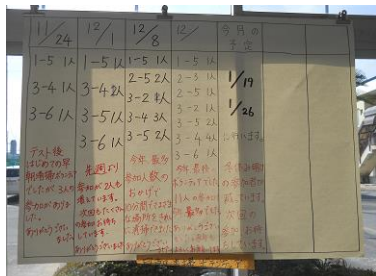
トイレ掃除に学ぶ会



地域清掃ボランティア



ボランティアカード



校内掲示（職員室前廊下）



緑化ボランティア

取組の課題・創意工夫『キーワード 仕組む 評価の工夫 成果の見える化 』

<取組の創意工夫>

①ボランティアカードを活用する。

自分の参加したボランティア活動を記録に残す。自分の足跡と達成感を持たせる。

②ボランティア活動参加の様子を全体に伝える。

参加人数や活動の様子を校内に掲示し、HPIにも写真やコメントを載せる。また、朝会や昼の放送で全校生徒に公表するとともに、生徒の活動により学校が変わってきたこと(掃除を頑張るようになった姿など)を教員が生徒に紹介し、ボランティア活動に参加した生徒が頑張っていることを実感できるようにする。

校内掲示に執行部が参加生徒へのお礼と次回の呼びかけ等のコメントを書き、生徒が生徒にボランティア参加への意識付けをする。

③ 各分掌や部活動と連携し、取組を行う。

あいさつ運動ボランティアにおいて、生徒指導部の登校指導と一緒に進行など、各分掌の取組と活動を相互的、総合的、計画的に組み込んでいくことで各活動がより効果的に行うことができるようにする。

④活動をクラスにつなげる。(ペナント表彰)

ボランティアカードでの表彰だけでなく、ボランティアにもっともよく参加したクラスをペナントで表彰する。各クラスがペナントを目標にすることで個人の取組をクラスの取組に広げ、全校で達成感を持つことができるようにする。

(ペナント10枚で大ペナント1枚)



【ペナント】



【表彰の様子】

<取組の課題>

①点検活動やボランティア活動を生徒に伝えるだけの委員会にならないよう、リーダーを育てる委員会として機能させる指導の工夫が必要である。

②頑張った生徒が認められ、更に頑張りたいと思えるよう、評価活動を工夫していく必要がある。

③生徒の中に「(部活動などで)強制参加させられているのではないか。」という意識を持っている生徒もいる。ボランティア活動の取組の意義や目的を全教職員で共有し、生徒に指導していくとともに、取組を仕組んでいく必要がある。

取組の成果(効果)『キーワード 意識や意欲の向上 あたりまえの活動に 』

①朝会や集会でボランティア参加者や成果を報告することで、三和中学校の成長を生徒と教員が共有することができ、次の活動への意欲につながるとともに、行事間のつながりや分掌間の連携など、その後の生徒指導や分掌の取組に活かすことができるようになった。

②ボランティア活動に自主的に参加する生徒が増加するとともに、部活動や学級での参加が見られるようになり、生徒のボランティアに対する意識の高まりが見られるようになった。

(※10月のボランティア活動参加者が200名を超えた。)

③校内のゴミの減少や挨拶できる生徒が増加し、三和中学校のマナー向上が見られるようになった。

④校内に落ちているゴミを拾ってゴミ箱に捨てる生徒や落し物を拾って届けてくれる生徒が増え、校内の問題や課題に目を向ける生徒が増えた。

⑤決められたボランティアだけでなく、日ごろの学校生活や行事等でボランティアに参加してくれる生徒が増えた。褒められるからではなく『無償で』『あたりまえに』するものだという意識が生徒の姿から見られた。

今後の展開『キーワード 生徒主体の取組へ 』

①これまで教員側からの発案を受け、生徒会が動くという形で取り組んできた。清掃活動以外にも何かできないか、学校外(小学校や地域)でも、できることはないか等、広く生徒からの意見を取り入れることにより、より主体性のある取組にしていく。

他校へのアドバイス『キーワード 組織的な取組 』

①「ボランティア活動をなぜ生徒会が取り組んでいるのか。」という活動の目的を生徒や教職員が確認し、取組を行う。

②ボランティア活動を生徒会の活動として丸投げするのではなく、分掌や部活動、学年、担任等と連携し、組織的に取り組む。

③ボランティア活動を通じて、生徒に「頑張ることによってこんな成果が出た。」「取り組むことによって学校が変わってきた。」ということを実感させ、次への意欲づけをさせる。

指定校番号	28099	学級活動	児童会・生徒会活動	<input type="radio"/>	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	-----------------------	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校

「特別活動の取組事例」

学校名	廿日市市立廿日市中学校	校長	沼本愼二	生徒指導主事	吉岡知美
-----	-------------	----	------	--------	------

取組事例名	『無言清掃実施に向けて』
取組のねらい『キーワード	目標に向かって行動を継続していく強い心の育成』
<p>○生徒一人ひとりが清掃を通して心を磨き、人間として成長すること (補足)「心を磨く」とは、自分で目標を立て、目標を達成するための行動力をつけ、その行動を粘り強く継続し続ける強さを身につけていくことと捉える。</p> <p>○無言清掃を通して身につけたい5つの心 我慢する心 気づきの心 思いやりの心 感謝する心 正直な心</p>	
取組の具体的内容『キーワード	リーダーの意識を高める』
<p>Step1 美化委員会にて、無言清掃の目的や意義について委員会のメンバーが理解をし、実施に向けての流れを把握する。</p> <p>Step2 生徒朝会で美化委員長が「<u>無言清掃の目的</u>」と「<u>それを通してどのような力を身につけていこうとしているのか</u>」と<u>活動の流れ</u>を説明する。(各委員会からの報告のところで説明するのではなく、特別に「無言清掃実施に向けて」といった時間を設けて説明する。</p> <p>Step3 取組第1回目の日に、美化委員長が放送により、今日から無言で清掃を行う取組することを宣言し、いつも以上に早く掃除場所に行かせる。(5分前集合をめざす) 教員も集合場所にさらに早めに行き、担当掃除場所の生徒が来るのを待つ。集合後、掃除長が、メンバーの担当用具や担当場所を確認後、今日から本腰を入れて無言清掃に取り組んでいくことを説明するとともに、どこからどこまでが無言なのかを確認する。その後、掃除長が「無言清掃をはじめます」「礼」と号令をかけ、清掃を開始する。その後は一切、無言です。担当教員も無言で指導する。片付けの放送が入ったら、無言でもとの場所に集まり、掃除長が「無言清掃の振り返りを始めます」「礼」で振り返りを始める。評価を確認後、掃除長が「これで無言清掃を終わります」「礼」で終了する。担当教員は点検簿にサインをする。</p>	
取組の課題・創意工夫『キーワード	生徒の生徒による生徒のための取組に発展させる』
<p>【実践するにあたっての留意事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 掃除時間開始のチャイムが鳴る3分前までに掃除場所に行かせることを徹底。 ② 掃除長の開始の号令から、振り返りタイム開始の号令までは、無言で活動することを徹底。 ③ 指導に当たる教職員も無言の徹底。 ④ 全員に掃除道具を持たせることを徹底。 <p>【美化委員長の思いや願いを全校集会で伝える】～取組の形骸化を防ぐために～</p> <p>○本校の美化委員長が全校集会で以下のような思いを伝えてくれました。</p> <p>私が美化委員長になってから初めて皆さんの前で「無言そうじをしましょう。」と呼びかけたのは、まだ私が中学2年生のときでした。大きな不安を抱えながらも勇気を出して言</p>	

った次の日の掃除のときでした。学校内では本当に甘中の生徒全員がいるのかを疑ってしまうくらい、すごく静かになったことを今でも鮮明に覚えています。1年生の皆さんはまだ入学していなかったことですが、2・3年生の皆さんは覚えているでしょうか。私は、こらえないとすぐに涙が出てきてしまうくらいすごく嬉しくて、感謝の気持ちでいっぱいでした。これからも、みんなで頑張りたいと思っていました。

でも、時間がたつにつれてみんなの意識は、だんだんと低くなり、協力して無言そうじしてくれる人も少なくなり、少し前までは、私の顔を見ると「無言そうじをしなきゃ」と思ってくれていた人も、それさえもなくなり、平気で何も動かない人、中には「もう放送が流れるだろうからさっさとやめよう」と思ったことがある人もいます。

私たちが生徒会の活動をするのも残りわずかとなりましたが、私は今でもこのような状況を変えたいと思っているし、みんなと協力してやりたいと毎日のそうじ時間中に思っています。学校内にいる人全員で時間いっぱい協力してやってみませんか。共感してくれる人がひとりでも多くいると嬉しいです。よろしくお願いします。

取組の成果（効果）『キーワード 掃除時間の振り返りは無言清掃達成に焦点化』

6月実施の第1回生徒アンケートの結果 第2回目は2月に実施予定

Q：あなたは無言そうじを実行していますか

4：よくあてはまる 3：ややあてはまる 2：あまりあてはまらない

1：まったくあてはまらない

【4と3の割合】

1学年＝82.1%

2学年＝72.4%

3学年＝85.8%

今後の展開『キーワード 他律から自立へ』

定期的に美化集会を全校や各学年集団で実施し、企画運営を全て生徒側で実行できるように主体的かつ自治的な活動へと転換していく。問題点や課題点を自らの力で発見し、改善したり質の高い清掃活動に変えていくための検討会やクラス協議の場を生徒会活動として設定していく。

他校へのアドバイス『キーワード 教員の動きを揃える』

生徒が教員側が望むような動きにならない場合、次の3点についてチェックしていく必要があると考えています。

1. 生徒に取組の目標や具体的な動きや方法が明確に伝わっているかどうか
(掃除のやり方を写真や動画で見える化する等)
2. リーダー的な役割を担っている生徒に取組の実態を把握させ、成果や課題を整理させているかどうか
3. 全教職員が、取組の具体を明確に把握し、動きを揃えることができているかどうか

指定校番号	28103	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	府中町立府中緑ヶ丘中学校	校長	谷川 清二	生徒指導主事	河本 春彦
-----	--------------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『中学校区内小中連携におけるクリーンキャンペーン』

取組のねらい 『キーワード 望ましい集団活動』

・中学校区内の小，中学生及び教職員，保護者，地域，関係機関が一体となった体験活動を通して，児童生徒の自尊感情を高め，社会参加の意欲や態度などの豊かな心の育成を図る。

取組の具体的内容 『キーワード 自己存在感』

・中学校区内の町内各小学校周辺の清掃活動
 ・各小，中学校の児童会，生徒会が中心となってお互い連携し，児童，生徒会議を通してクリーンキャンペーンの実施計画を行う。
 ・中学校生徒会執行部が中心となり具体的な実施内容や清掃区域（コース）の設定を行い，小学校の児童会へ説明を行う。

取組の課題・創意工夫 『キーワード 自己決定』

・児童，生徒会の会議の中で毎回クリーンキャンペーンの目的や目標を設定する。
 ・児童，生徒会の会議の司会，挨拶，内容等の説明を行う。
 ・計画に際し，コース決めや説明に必要な掲示物の準備や配布物，各グループ分けの人数調整などの決定
 ・清掃活動当日の集合場所による司会進行や説明，グループ毎のチーフの引率による清掃活動の誘導等の実践。

取組の成果（効果） 『キーワード 共感的人間関係』

・「人とのかかわりあいの中で，夢や希望を持っている」生徒の割合(83.6%)
 ・「社会や集団の中で自分の果たす役割を考えている」生徒の割合(85.7%)
 この評価指標は，学校評価アンケートの1学期と2学期の平均を出したものである。この結果から，生徒の8割が自分の果たす役割や人と関わる中で夢や希望を持って生活していることがみられる。

今後の展開 『キーワード 社会的自立』

・上記のような集団による実際の体験活動を通して，より良い人間関係を築く力，主体的，実践的な態度，望ましい集団活動の方法などを身につけていくことを目標とし，社会的自立へと繋げたい。

他校へのアドバイス 『キーワード 生きる力の育成』

・生徒指導にとって，児童会や生徒会活動または部活動，学校行事などの最も重要な教育活動の場を通して，「知」，「徳」，「体」のバランスのとれた「生きる力」の育成を図る。

指定校番号	28113	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立久保中学校	校長	利田 亨次	生徒指導主事	得能 彩子
-----	-----------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『生徒主体のボランティア活動』

取組のねらい『キーワード 自己肯定感の向上』

本校の生徒の課題の1つに、自己肯定感が低いことが挙げられる（H28年7月生徒アンケート『自分には良いところがある』肯定的回答54.6%）。それを踏まえて、本校では、自己肯定感の向上を目指して主体的に学ぶ授業づくりや、生徒主体の生徒会活動を重視し取組を行っている。また、地域との交流を通して、生徒の活動に対する『外部からの評価』が重要であると考え、本校では地域でのボランティア活動や地域・保護者との交流に取り組んでいる。

取組の具体的内容『キーワード 生徒主体の取組』

■校区内高齢者施設「星の里」、校区内保育所「るり保育所」「北久保保育所」でのボランティア活動

- ①高齢者施設や保育所を生徒会執行部、担当教員が訪問し、活動内容について打ち合わせをする。
- ②生徒会執行部がボランティア参加者募集の呼びかけを行う。
- ③ボランティア活動に参加。その後、参加者が活動内容や感想を全校生徒に伝える。

実施日 7月9日(土) 9月10日(土) 10月8日(土) 12月10日(土) 2月11日(土)

<星の里での活動>

<保育所での活動>



車いすの介助の方法を職員の方から学ぶ



交流の様子 折り紙



ブラスバンド部による演奏



園児が遊ぶおもちゃづくり

■地域の清掃活動に参加

- ・2学期の土曜参観日後に地域の方、保護者と共に校区内の清掃活動を実施。
- ・7月31日(日)（尾道住吉花火祭りの翌日）朝7:00～9:00に尾道海岸通りの清掃活動を行う。今年度は、55名の生徒が参加。



清掃活動の様子

■尾道灯りまつりへの参加

- ①生徒会執行部が尾道市立大学美術学科と連携し、西郷寺境内での灯籠の並べ方のデザインを考える。
- ②当日に向けて、地面にデザインを下書きする練習を繰り返す。
- ④10月9日(日)西郷寺において、生徒会執行部と3年生有志でデザインの下書きをし、全校生徒が作成した灯籠を並べ点火する。



尾道市立大学との打ち合わせ



灯りまつり当日 下書きして、灯籠を並べます



■部活動による朝の清掃活動，挨拶運動

- ①毎朝 7:40～8:05，部活動ごとに清掃活動及び挨拶運動を実施する。
- ②登校してくる生徒だけでなく，地域の方にも挨拶を行う。



朝の清掃活動



お世話になっている地域の方へ挨拶

取組の課題・創意工夫『キーワード 生徒に責任と自覚をもたせる』

・生徒の主体性の尊重

企画，計画段階から生徒の参画を仕組み，生徒の意志や主体性を尊重し活動を実施している。さらに，ボランティア参加の呼びかけを生徒が行ったり，活動報告をしたりすることで，これまで参加したことなかった生徒も活動に興味を持ち積極的に参加しようとする雰囲気づくりの工夫をしている。

・取組の継承と自覚

どの活動も息の長い活動となっている。これまでの生徒が取り組んできたことを生徒会執行部だけでなく全校生徒に紹介し，なぜこの活動が大切なのか伝えてきた。また，尾道灯りまつりの参加については，尾道市立大学と直接連携をとっているのは市内でも久保中学校だけである。この活動に誇りを持ち，自分たちの手で地域の祭りを創りあげていくという意識を持たせている。

取組の成果（効果）『キーワード 自発性や自主性の育成』

生徒アンケートの結果

	H28.12月	H28.7月	7月比
	肯定	肯定	
地域や学校でしっかりと挨拶をするよう心がけている	85.9	85.9	0.0
朝のあいさつ運動(朝の掃除)に積極的に参加している	77.5	65.4	↑ 12.1
ボランティア活動に参加したことがある	75.9	46.4	↑ 29.5
異年齢交流(保育所・小学校・星の里)に満足している	73.6	72.7	↑ 0.9

<自己肯定感に関するアンケート結果の経年変化（現中3）>

	H28.12月	H28.7月	H27.12月
	肯定	肯定	肯定
自分にはよいところがあると思う	49.2	42.3	39.6

少しずつではあるが，取組を通して生徒が自分に自信をもち活動に参加していることが分かった。

今後の展開『キーワード つながり』

・教員が現状維持にとらわれるのではなく、『創造』する気持ちや雰囲気づくりを持ち続け，生徒が主体となった取組を継続させる。校内の様々な教育活動に加え地域の方との交流を図り，外部からの評価を生徒が実感できるようにする。そのことが，自己肯定感のさらなる向上につながることを教員が意識して取組を継続していく。

・外部との交流を単発で終わらせるのではなく，交流で築いた地域の方との関係や絆を学校生活や行事につなげていくことができるよう工夫していく。

他校へのアドバイス『キーワード 地域の強みを生かす』

・生徒実態や地域の強みなどを把握し，その学校に適した活動を実施していくことが大切である。外部の方からいただくエネルギーは非常に大きいということを教職員が理解し，共に生徒を育てていくという姿勢を大切にすることが重要である。

指定校番号	28117	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	庄原市立庄原中学校	校長	定宗讓二	生徒指導主事	小田昌滋
-----	-----------	----	------	--------	------

取組事例名 『全校ボランティア』

取組のねらい 『キーワード 社会奉仕』

全校ボランティアで地域の清掃を行うことによって、私たちが毎日使っている通学路や生活している場所を、自分たちの手できれいにし、ゴミのないきれいな「庄原」にしていく意識を高めさせる。また、日ごろから私たちを支え、見守ってくださっている地域の方々に感謝の気持ちを表し、社会奉仕の意識を高めさせる。

取組の具体的内容 『キーワード 主体性』

本校には運動系と文化系を合わせて13の部活動があり、ボランティア活動を部活動単位のグループで行っている。活動範囲は、学校周辺の通学路を中心にできるだけ広い範囲の清掃活動が行えるよう計画をしている。活動の回数は各学期1回の年間3回行い、美化委員会が中心となり企画・運営し、各部活動の部長が中心となり活動することによって、生徒の主体性を育てる活動になっている。

取組の課題・創意工夫 『キーワード 異学年交流』

創意工夫としては、部活動単位での活動であるため異学年交流になり、上級生が下級生を指導しながら、学年の枠を超えて互いに協力し合いねらいを達成できるようにしている。課題としては、年3回実施しているが、残念ながら毎回多くのゴミを収集している。清掃活動だけでなく地域のゴミを増やさないための活動を、美化委員会を中心に取り組むことができれば、更に地域社会への奉仕意識を高めることができると考えている。

取組の成果（効果） 『キーワード 地域貢献』

ボランティア活動は毎年行っているため、定例化した活動になっている。そのような中、生徒の社会奉仕の意識は高まっており、地域の祭りの後に生徒たちが自主的に清掃活動をし、地域の商工会からお礼の言葉を頂くなど、地域貢献にも繋がっている。

今後の展開 『キーワード 広がり』

今後も継続して美化委員会を中心にボランティア活動を行っていきたいと考えている。今後の展開としては、地域をきれいにするための啓発活動や、地域の方と一緒に活動できるような取組になればと考えている。また、現在行っているボランティア活動以外にも、生徒が自主的に参加するボランティア活動を今後計画していきたい。

他校へのアドバイス 『キーワード 自己肯定感の向上』

本校では継続してボランティアの取組を行う中で、生徒のボランティア意識が高まり、地域の中で自主的に活動できる生徒が増えてきている。また地域から肯定的な評価を頂くことで生徒の自己肯定感が高まり、それが普段の学校生活での落ち着きや地域で挨拶がしっかりできるなど行動面に表れている。



(清掃活動の様子①)



(清掃活動の様子②)



(1回の活動で集まったゴミ)

校番	031	ホームルーム活動	生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
----	-----	----------	-------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島県立松永高等学校	校長	山垣内 俊行	生徒指導主事	石田 達生
-----	------------	----	--------	--------	-------

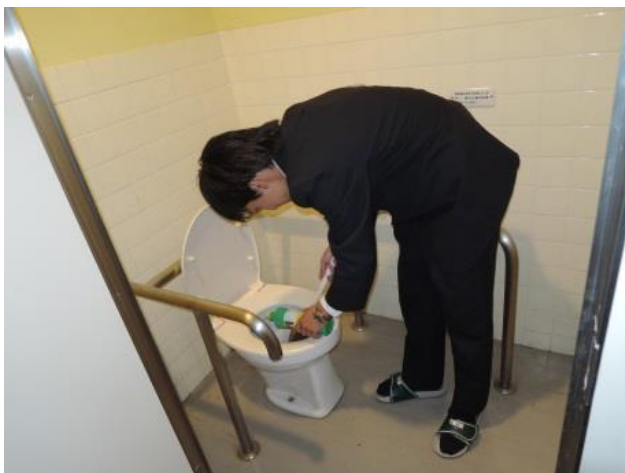
取組事例名 『月1（イチ）ボランティア』

取組のねらい『自分たちの居場所は自分たちできれいにしよう』

生徒会長の思い「校舎をきれいにしたい」、副会長の選挙公約「学校をきれいにし、愛される学校にする」を基にボランティア清掃活動を行う。活動を通して、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする態度を養うとともに、活動の輪を拡げていく。

取組の具体的内容『松高ピカピカ大作戦』

学校経営計画支援事業に「松高ピカピカ大作戦」で応募し、清掃用具（高圧洗浄機2台）を購入する。昇降口に「目安箱」を設置する。続いて、各クラスに「ドラえもんBOX」を設置し、広く意見を求める。
 9月から「生徒会だより」を発行し、「月1（イチ）ボランティア」の情報などを生徒に広く周知する。月に1回「テーマ」を決めて、放課後に1時間程度清掃活動を行う。
 「生徒会だより」を通して、成果報告と次回の案内を行う。



取組の課題・創意工夫『目安箱・ドラえもんBOX』

今月で5回目となる。少しずつではあるが、参加者は増加傾向にある。各クラスに「ドラえもんBOX」を置いたことや「生徒会だより」の発行が、生徒会執行部と他の生徒とのコミュニケーションツールとなり、情報の共有化が図られ、生徒会活動の活性化につながることを期待するものとなっている。情報共有をより深めていくために、「生徒会だより」等の内容の充実を図るとともに、情報を周知する方法を工夫していかなければならない。

生徒会だより
第4号 平成30年12月14日発行
発行所 松山高専学校生徒会執行部
責任者 生徒会 竹 内 薫 菜

運動会 お疲れ様でした!!
皆さん運動会が
大成功でした。
1ヶ月を空けて
思い出を振り返っ
ているのを
生徒会としては
嬉しく思います。

12月の月1ボランティア!!
12月の月1ボランティアは...
更衣室をやり直し!! (外!!)
「土曜朝服が汚れたのが当たり前か?」
日付: 12月16日(金) 球技大会の時!!
集合場所: 運動場の更衣室前
よしくおこなってください!!

運動会の下調べ結果です!!
なんと92%の人が「賞品の
欲しいです!!」
新種目の6人制サッカー
どうですか? 応援団が
楽々でいいかな? 生徒会が
準備も工夫していること
思っています!!

次は球技大会です!!
私は去年、自分がチームの
どっちか? 応援団が
かたので、今年も備子に
わがままか? と思っています!!
お楽しみに!! (笑)

11月の月1ボランティア
キレイにしたいところ 募集中!!

11月の月1ボランティア
ありがとうございました!!
11月の月1ボランティア
と、キレイにしたいところ
頑張ります!!

生徒会だより
第5号 平成30年12月21日発行
発行所 松山高専学校生徒会執行部
責任者 生徒会 竹 内 薫 菜

**11月の月1ボランティアは
高压洗浄機を
使います!!!**

**11月の月1ボランティア
ありがとうございました!!**

**10月の月1ボランティアは...
20日(木)に行きます!!**

場所は 運動場前、
放課後16時~17時に集合してください!!
土曜朝服を準備してください!!

名前つけんと
使えささご →

名前募集(写真)

たくさん
意見頂いてます!!

取組の成果（効果）『生活環境・学習環境の維持向上』

参加人数はまだ少ないものの、参加した生徒は、自らの生活環境や学習環境を自分たちの手で整備したことで、達成感や充実感を味わい、仲間とともに協力し課題解決をめざす能力を身に付けることができたと考える。また、参加していない生徒も、汚れていた所が仲間たちの力できれいになっているのを見て、意識が変わり心が動かされていくのではと考えている。

今後の展開『小さな輪から大きな輪へ』

今後は、これまで参加してきた生徒たちがさらに友達を1人でも2人でも多く巻き込み、大きな輪へと広げていくこと。そして、校内での活動を充実させるとともに、校外での活動も企画・実施し、当たり前のことが当たり前のできる学校として、地域から頼りにされ、愛される存在になっていきたい。

他校へのアドバイス『継続、そして伝統へ』

これまでも「美化女子隊」などとして清掃活動等を行ってきたが、先輩から後輩へと十分繋がっているとは言えないのが課題である。しかし、松高生の取組として継続させていくことで今年度の活動が来年再来年へと繋がり、「伝統」と呼べるものにまでなっていくのではないかと考える。

校番	065	ホームルーム活動	生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
----	-----	----------	-------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島県立府中東高等学校	校長	小迫 孝太郎	生徒指導主事	富島 俊宏
-----	-------------	----	--------	--------	-------

取組事例名 『鵜飼駅の環境整備』

取組のねらい『キーワード 規範意識, 帰属意識を育てる』

本校生徒が最寄駅として利用する鵜飼駅（無人駅）が、タバコの吸い殻やゴミの放置などで汚れ、駐輪場も乱雑で自転車の盗難などもあり、大変荒れた状態となった。電車内のマナーや駅の利用など、本校生徒の状況を見られた方からの苦情も多かった。そのため、駅周辺の町内会などが中心となり、鵜飼駅を清潔で安心して利用できるようにと平成 26 年度より「鵜飼駅周辺を良くする会」が設立された経緯がある。

そこで、地域と一体となった清掃、植栽などの活動を通じて、地域に信頼される学校にしていきたい。また、生徒の規範意識や帰属意識の向上につなげていきたい。

取組の具体的内容『キーワード 地域貢献』

- 生徒，P T A，教職員で，年 2 回の美化活動。
- 「鵜飼駅周辺を良くする会」と生徒会での植栽。
- 教職員による月 2 回の早朝登校指導。
- 実習作品の展示。
- 駅名看板の改修。
- 花壇の整備。



取組の課題・創意工夫『キーワード 触れ合う』

- 人に見られることを意識して作品を制作する。
- 生徒の作品であることを周知し，物を大切にすることを高める。
- 地域の人と触れ合うことで，帰属意識を高める。
- 本校の P R につながる。
- 一部の固定された生徒のみが活動している。

取組の成果（効果）『キーワード 信頼を取り戻す』

- 地域住民（鵜飼駅周辺を良くする会）の意見
 - ・タバコの吸い殻が減った。
 - ・挨拶を返してくれる生徒が増えた。
- 地域からの苦情が減った。
- 美化活動に参加する生徒が増加した。
- 参加生徒の意見
 - ・地域の人からの期待を感じることができた。
 - ・駅の状況が気になるようになった。



今後の展開『キーワード 継続・発展』

- 定期的な整備，植栽を行い，きれいな環境を維持する。
- 地域やPTAとの連携を継続・発展させる。
- 他の駅や公園など，整備する場所を拡大させる。

他校へのアドバイス『キーワード 体験』

- 学校，地域の特長を生かしながら，校内での学習などの活動を校外につなげていく。
- さまざまな人と接すること，作品を制作する側，鑑賞する側という違う視点からものを見ることなど，さまざま体験を通して，人間性の向上につなげていく。